

東京保育界の兩先人

— 河合千代女史・由良せき女史 —

河合幼稚園長の河合千代先生、成志幼稚園長の由良せき先生は共に昨秋、教育勅語済發五十周年記念日に、幼稚園教育の功勞者として文部省より表彰せられた方々であります。〔編輯係り〕

河合千代先生の御事

河合幼稚園は牛込區市ヶ谷山伏町にあります。河合先生は今年七十歳におなりでございます。

先生は十八歳のお若い時から、五十餘年もの長い年月を、

河合幼稚園の園長として名利をよそにたゞく、幼兒の教育に盡されておいでになりました。

河合幼稚園は明治二十三年、牛込に創設せられました。

その後明治四十三年に、元の建物を現在の場所へ移して經營せられておいでになりましたが、大正六年の頃、古い建物をこわして只今の木造に建てかへられたのでございました。さつしりした重みのある只今の園舎、つゝじの咲き映えてるる趣きのあるあのお庭は、或る固い信念を持つておいでになつて、何物にもおかされないといふ先生の御人格、共通の感じが致しました。

今までこそ幼兒教育の重要性が社會の問題として取り上げられるやうになりましたが、明治二十三年といふ時代に幼兒の教育へ志された先生の御心持の中には、何か先生をしてさうさせた原因、動機といつたやうのことがお有りのやうに思はれ、それについてお尋ねしたところ、只簡単に「私は小さい時から子供が好きでしたから。そして私は小ささい時、両親に亡くなられましたから」

ご答へられました。併し、いろいろ先生の御身邊の御話を伺つてゐる中には、先生をして幼兒教育に向かはしめた御環境のある事に心づくのでござります。即ち、先生の御姉様が、芝山内にあつた麻布共立幼稚園に、近藤はま先生の許にお勤めになつてゐられ、先生はこのお姉様の後任として、その共立幼稚園に一年程お勤めになつて居られました。後、御姉様達のお勤めで獨立して河合幼稚園を始めたのです。その後も始終お姉様方が或ひは一緒に住まはれ或是お近くにおいてなつて、末つ子でいらつしやる先生を蔭になり日向になりして守り立てゝいらしたのは言ふ

までありません。

「私立の幼稚園の經營はなかなか六ヶ敷いものです」

「ご先生は語られました。最初は十一人程しか集りませんでしたよ」ごも言はれました。

「幸ひ私には父が私の爲に残してくれた遺産がありましたので、今迄かうしてつゞけて來られたのです」

過ぎし三月十六日、こゝの幼稚園の卒業生の手で、先生の古稀のお祝が學士會館で催されました。

「參會者が一百餘名ありましたが、皆さんお立派に成人されたのを見ましてほんとに嬉しく思ひました。軍人さんもありますし、實業家の方もありますし、又官吏の方もあります。みんな昔の佛を持つておいでになりながら、見違へるやうにお立派になつておいででした。卒業生の方は三千名位にはなるご思ひますが、何しろ名簿もはつきりしませんので……」ご心からの悦びを湛へて仰言られたのでありました。

最後に幼稚園の園舎を拜見いたしました。各室には動植物の標本や掛圖が種々取り揃へられ、遊戯室には、先生の永年の保育生活の間にから得られた數々の表彰状が額にしきてかゝげてありました。先生は

「私はかうしてかけたりなさるのはひ嫌ですから、卷いて、神棚においてたのですが、卒業生や親戚の者達がそれを

取り出して来て、かうして掛け下さつたのです。先生は嫌ひでも、かうしてかけておくさ。第一、幼児達の親が安心しますよ」かう云つて、私の好まないことをしてしまひました。」ご謙遜せられる。

又その一つの類には、御親類に當る國文學界の耆宿、「汽笛一聲」「天に代りて」の作者故大和田建樹先生の御作になる河合幼稚園の園歌がかゝげてありました。

お奇麗に書かれてある額の字が、所々墨の色が薄くなつてよく讀めませんまゝに、先生に伺ひますご、先生は墨痕いごも鮮かに次の三首をお認め下さいました。

園 歌

此そのにおひたつ松のわかみざり

雲ゐる峰のものごなるまで

おほしつる心をしりてますぐなる

節をなかへそ園の若竹

春ごとに色をそへてさきいでよ

なほ薔なる花のおさな兒

いゝお字、いゝお歌、昔の方は偉いなあごしみじみ感じながら辭したのでした。

×
×

由良せき先生の御事

由良せき先生は今年八十三歳の御高齢でいらっしゃいま

すが、なかくの御元氣で、今以つて成志幼稚園の園長として幼兒の教育に専念せられておいででござります。成志幼稚園は現在は荏原區西戸越町にあります。

由良先生は明治二十二年には日本橋區源田二丁目に私立志小學校を創設せられたのであります。明治二十九年この小學校に幼稚園を併設せられ小學校と幼稚園とを兼ねて經營しておいでになりました。その後小學校教育は日に月に進歩普及したので、由良先生は、最早や小學校の必要なしとし、明治四十三年、斷然小學校を閉校せられ、爾後益々幼稚園教育の必要を感じられその經營に専念せられたわけであります。

大正十二年の大震火災に、成志幼稚園も亦その災に遭はれ、現在の戸越に移転、今日に及びました。

由良先生は眞に信念の方、意志の方、熱の方を伺つて居ります。名利の外に超然として、日夜心身を碎かれる尊いそのお姿は、先生の許にあつて同じ仕事に従事せられた人

人の等しく崇敬せられるところ、又その師弟、同窓間の温情も特筆すべき醇風美俗と伺つて居ります。

先生の永い保育生活中の思い出話の中で、年二回の春秋の遠足を無事に済した後保母さんの方でその日の遠足について語り會ふのがこの上もない楽しい思い出であるとの御話で御座います。

又出身幼兒が成長してその結婚の通知に接した時、又は
今回の事變に應召、國家に御奉公を果し無事歸還の通知に
接した時は、この上もなく嬉しい事も仰せでござります。
御高齡にも拘はらず鑽鑠として居られた先生でいらっしゃ
いましたが、昨年末軽い脳溢血にて右半身不隨にかかり
れたご伺つて居りますが、頂戴いたした御芳書など、な
かくのお達者なもので、先生の御人となりがよく推察出
來るのであります。

只今成志幼稚園は由良先生が園長で、御長女が副園長（小学校教育に長年從事せられた方）十三年勤續の保姆一名お孫様二名（東京昭和保姆養成所卒、及帝都教育會保姆傳習所卒）ごで經營せられ、日に月に隆盛に赴いておいでご伺つて居ります。

頂戴した御書簡の終りに、先生御自作の御歌が認められてございました。

うりいて、功もなきにはからずも
み喜み落すとゆき

み恵み浴す老のおもなさ